

I 国語 研究テーマ

自覚的に言葉の力を働かせ、言葉とよりよく向き合う子どもを育む学び

II 研究の重点

よりよい解釈や表現を生み出す言葉に関する「問い」を、「学びのものさし」を活かして吟味する場の設定

III 3年次の成果と課題

1 成果

(1) 「読むこと」「書くこと」における個に応じた学び

学習目標を達成するための学習の手立てや、子どもたちが読み取っていく教材文、書き進めていく文章の文種といった、一人一人の子どもたちの学び方に選択肢を設けてきたことで、子どもたちの意欲を引き出したことが成果である。辿る道筋が違っていても、子どもたちが到達する目標は共通のものとして、明確な目標を掲げながら指導してきた。

1年「オリジナルじどう車カードゲームであそぼう～じどう車くらべ～」では、教材文を提示すると、子どもたちは、「いろいろな自動車が、いろいろな仕事をしているんだな」、「バスはたくさんの人を運ぶ仕事をしていて、そのためにたくさん座るところがあるんだ」と、思い思いの感想を述べていた。その中で、「自分が好きな自動車のことを書きたいよ」という声上がり、そこから「好きな自動車のカードを作って、それで遊びたい」という学習のめあてが生まれた。自分だけのカードを制作し、遊ぶ活動を通して、自動車の「しごと」と「つくり」は、どのような順序で説明するとよりよく伝わるのか、自分たちで考え、理解していく子どもたちの姿が見られた。

5年「書き替えたり、書き直したりして読み深めよう～わたしが選んだ物語～」では、子どもたちの関心や能力に適した複数の教材文を想定し、提示した。複数の教材文に触れた子どもたちは、自らの関心に基づいて選んだ物語の登場人物の立場に立ち、教材文のリライトを行った。そうして登場人物の心情や、登場人物相互の関係性について自分なりの解釈をもつことができた。その後、同じ物語を選んだ仲間とそれぞれの解釈を話し合うことで、さらに物語への理解を深めていく姿が見られた。

6年「書きたい世界が広がる『作家の時間』」では、6年生の作文単元で学習する5種類の文種を年度初めに提示し、それぞれの子どもの関心をもったものから取り組めるようにした。子どもたちは、自らの生活経験から考えたことや、調べ学習を通して分かったことについて、よりよく伝えられるような文種や書き方を自ら判断し、選び取りながら執筆を進めていった。

子どもたちの学び方に選択肢を設けることは、子どもたちの学習意欲を喚起した上で、それぞれの学びを共有し、深め合う場面を生み出すことにつながった。このことから、子どもたちが自らの学びを深めるための道筋を選ぶことができるようにすることは、子どもたちが「追究したい」と思える「問い」を引き出すことにつながっていくと考える。

(2) 「個別の学び」と「共有する学び」の往還

子どもたちが個別に学ぶ場面だけでなく、学びを共有する場面も設けることで、一人一人の子どもの学びを保証できたことが成果である。

学びを共有するための手立てとして、子どもたちの課題意識や活動の特性に応じたミニ・レクソンを実施した。その結果、子どもは個別に学んでいることと、学級全体で学んでいることをつなげるきっかけを得ることができた。

5年「書き替えたり、書き直したりして読み深めよう～わたしが選んだ物語～」では、学級全体で「海の命」を共通教材として扱ったことで、子どもたちは個別に物語を読み深める手立てとしてのリライト文の書き方を身に付けることができた。また、「海の命」の人物相関図を学級全体で作りに上げていくことを通して、物語全体を見渡しながら読むことが、登場人物相互の関係性を読み取ることに繋がると実感している子どもたちの姿が見られた。

6年「書きたい世界が広がる『作家の時間』」では、毎時間のテーマに適した共通教材の提示や、子どもが書いた作文を基にしたミニ・レクソンによって、よりよい文章を執筆するための拠り所をつくり、発見した学びを交流・共有する場面を設けることができた。

「共有する学び」を授業の中に適切に配置することが、「個別の学び」の充実につながっていた。さらに、「個別の学び」で発見した学びを「共有する学び」で交流することが、それぞれの子どもたちの深い学びにつながっていたと考える。

2 課題 子どもたちの「学びたい」を引き出す選択肢

今後も、子どもたちが個別に学び取ったことについて、仲間と交流しながら、より深め合っていけるような活動の工夫を行っていききたい。そのために、子どもたちが国語科の学習に求めているものや、一人一人の子どもたちの学びをつぶさに見取ることを通して、よりよい解釈や表現を追究していける「学びの選択肢」を提示したり、一人一人の学びの応じた、きめ細かな手立てを講じたりすることができるようにしていきたい。